

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

6月号

平成26年(2014). 6. 4



## ～ 運動会へのご参加・ご協力、ありがとうございました～

校長 市川 幸男

5月31日(土)快晴の天気のもと、本校大運動会を無事行うことができました。ほとんどの学年が黄金週間明けから、練習に取り組み、わずか3週間の間に作り上げて参りました。その背景には、先生たちの的確な指導と指示があったのはもちろんですが、友達の良い動きを参考にしながら、どうしたら上手になるのか、自分なりに工夫し、自分の技能を高めようと熱心に取り組む姿勢が、大きく働いたと思います。おかげさまで運動会当日は、どの学年の子どもたちも、練習の成果をしっかりと発揮し、見事な演技を披露できたのではないかと思います。

来賓・保護者の皆様には、暑い中、子どもたちに励ましや賞賛の声をかけていただき、ありがとうございました。また、前日、当日とテントの設営や撤収などの会場の準備・片付けの際には、PTA本部役員さん、ボランティアの皆様をはじめ、多くの地域、保護者の方々にご協力いただきました。こういった千秀小学校を支えてくれる力こそ、学校の宝だと、あらためて地域や保護者の皆様に感謝した次第です。

さて、季節は6月、梅雨の時期となりました。雨が降りやすくなり、登下校の際は空を見上げて恨めしく思うことも多々ありますが、見方を変えれば、外に気をとられることもなく、じっくりと落ち着いて学習を展開できる時でもあります。新年度が始まって2ヶ月が過ぎ、総じて子どもたちは日々の学習に一生懸命、じっくり取り組んでいます。話をしっかり聞いて問題解決に集中することが基礎学力の定着・学力の向上の基本だと思います。この状況を基盤にしてさらに発展させていけば大きな成果に結びつくと思っています。ところで、私は分かる授業や向上を感じる授業には「厳しさ」も必要だと考えています。学習を進めていく中、教えなければいけない内容や身につけなければいけない技能については、揺るがすことなくしっかり指導していくことが大事です。ところが最近この厳しさに弱い子どもたちが多いのではないかと不安になることがあります。いつも「楽しかった」だけでなく、「つらかったけど頑張ってきた。」など、困難を乗り越えていく体験や成就感が人の成長には必要なのではないのでしょうか。私たちがあこがれるトップアスリートたちも、人に言われぬ厳しい練習や困難をいくつも乗り越えて、時にはできない悔しさに涙を流して、自分を磨き、一流となったのだと思います。今回の運動会の演技・競技の向上を目指した体験が、困難に負けず、果敢に取り組んでいく強い心に結びつけてくれることを期待しています。

話は変わりますが、5月26日、本年度第1回の運営協議会を開催いたしました。後の紙面でも触れますが、その際に小学生の「あいさつ」を広く社会まで広げようというご意見をいただきました。現在、千秀小学校では教職員や児童会を中心に校内でのあいさつの励行に取り組んでいます。でも校内だけの運動で良いのかという疑問を常々もっていたところ、折良く、協議会委員の方から前述したようなご示唆をいただき、学校としての方向が定まったように思います。もちろん小学生ですので、町内会全体への働きかけをする中学校の活動と同様にはいきません。自分の住んでいる身の回りへの働きかけという形で進めて参りたいと考えています。具体的には、今後、児童会や個々の子どもたちから、あいさつの取り組みについてお知らせして参ります。その際は、ご協力よろしく願いいたします。その第1歩として、ご家庭からご協力いただけるとありがたく存じます。